

内航海運が中長期的に目指すべき方向性について

- 内航海運が中長期的に目指すべき方向性として、「安定的輸送の確保」と「生産性向上」が重要ではないか。他にどのようなものが考えられるか。
- これらの方向性(目標)について、何らかの具体的な目標値を設定することについてどう考えるか。

内航海運が中長期的に目指すべき方向性について

国内物流の基幹的輸送インフラとして、安全性の向上は前提としつつ、

- 他の輸送機関では代替できない内航海運独自の役割である産業基礎物資輸送やモーダルシフトの担い手として、安定的輸送サービスを提供する必要は不変ではないか

...**安定的輸送の確保**

- 今後の輸送需要の横ばい・減少傾向、荷主企業の経営統合の動き、人口減少に伴う担い手不足の進展等を踏まえると、より一層生産性を高めることが必要ではないか

...**生産性向上**

方向性の実現に向けた中長期的達成度合いを計る指標について(例)

安定的輸送の確保

- 国内貨物輸送のうち内航海運による輸送分担率(H26:44%)
- 内航海運の輸送量(H26:3億7000万トンキロ)
- 内航海運による雑貨貨物輸送量(H26:331億トンキロ)

生産性向上

- 内航貨物船の平均総トン数(H27:715トン)
- 内航貨物船の平均積載トン数
- 内航海運の平均積載率

方向性の実現に向けて講ずべき施策のテーマ(例)

安定的輸送の確保

- ・若年・女性船員の確保・育成の強化
- ・円滑な代替建造の支援
- ・新たな輸送需要の掘り起こし

- ・船舶管理会社の活用促進等
事業者の経営体力の強化

生産性向上

- ・船舶の大型化・省エネ化の促進
- ・効率的な運航のための技術の開発・普及
- ・先進的な船舶の普及促進